

教育目標		『つながり』を大切に 自ら未来を切り拓いていく 児童生徒の育成 ~TSUNAGARU 人と、世界と、未来と、心と~			総合評価	
めざす子ども		自分大好き、学校大好き、ふるさと大好き！				
運営方針		『チームきたうち』として「支え合い、助け合い、高め合い」 3合（愛）精神でみんなが仕事（子育て）を楽しむ（学校・保護者・地域）				
令和3年度の成果と課題		本年度の重点目標				
【成果】 ○ミート朝会の活用 ○各単元の重点目標に合わせた教材授業づくり ○運動好きな児童の増加 【課題】 ●自己肯定感の向上 ●自分の意見や考えを伝え合う積極性 ●メディアコントロールの意識の低さ	(豊かな心) ○規律ある生活の中で、自分の価値を見だし互いに認め合える子どもの育成	○北宇智小学校最後の一年を、友達や先生など周りの方々へ思いやりの心を忘れず過ごすと共に、統合へ向けより自尊感情を高める。 ○「見つめよう」「伝え合おう」をテーマとして、自己の特徴や役割と、友だちの多様な考えや立場を理解し、他者と協力・協働できるような児童を育む。			B	
	(確かな学力) ○『読解力』向上のための「思考力」と「表現力」の育成	○『論理国語』のメソッドを活用した正確な読みを基に、自分の考えを構築し、表現することができる力を育成する。 ○新聞や図書を通じた言葉との出会いを大切にし、『生きた言葉』を扱うことのできる「語彙力」を育む。				
	(健やかな体) ○心身の健康増進と体力の向上	○運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。 ○健康的な生活習慣を形成し、心身の健康増進への意欲を育成する。				
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的施策、評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価
豊かな心	規律ある生活 学級活動の充実	○北小のきまりや月別生活目標、新型コロナウイルス感染予防を心がけながら、異学年交流を意識した取り組みを考え、児童も教職員も充実した1年間を過ごせるようにする。	3.2	○こまめな指導で、新型コロナウイルスによる風評被害は見られなかった。 ○感染対策を講じながら、異学年交流の機会を増やすことができた。 ○ミート朝会を活用し、北小のきまりや月別生活目標、完成予防についての指導ができた。 ●日常的な声掛けや、振り返りの機会は学級によりばらつきがあった。	①誰が、いつ、どのように声掛けしていくのかを共通理解し、継続できるようにする。	いじめの定義についての理解が教師と保護者、あるいは保護者間でも考え方にズレがある。保護者への啓発をお願いしたい。
	自尊感情 感謝の心	○全教職員が、学校生活の中で北宇智小学校の児童として誇れるポイントを見つけ、伝え、児童の自尊感情を高めると共に、自信を持って統合校へ踏み出せるようにする。	3.1	○職員会議や終礼で、定期的に児童の実態や事象を全職員で共通理解した。 ○全職員が児童の「よいところ見つけ」で情報共有し、フィードバックできた。 ○朝・帰りの会では、自尊感情向上のための工夫した取り組みができた。 ○来年度の統合に向けて、東小との交流会を実施した。	②ゴール設定と振り返りを一体化したワークシートで自己評価を習慣づける。	
	自己肯定感の向上 主体性	○自己の特徴(得意なことや苦手なことなど)や役割などに目を向け、それらをもとに目標や行動を自己決定することで、様々な活動に前向きに取り組めるようにする。	3.2	○児童アンケートの1学期と2学期の結果を比較すると、マイナスの回答をしている児童が減少している。自己理解を促し、目標をもって努力する日々の取り組みにより、前向きになれなかった児童が変容してきていることがわかる。 ●自信をもってよくできたといえる児童の数については伸びていなかった。	①目標をもって取り組んだ一つ一つの活動に対してフィードバックをしっかりと行い、それぞれの児童の成果を実感できるように促す。	
	傾聴力 自己尊重の精神	○互いの意見や考えを伝え聞き合うことで、多様な考えや立場を理解できるようにし、認め合える関係づくりを進める。	3.2	○周りの意見を聞くだけでなく、自分の意見を伝えることにも前向きに捉えている。 ○感染対策を講じながらペアやグループでの交流を積極的に行なった。 ○互いに認め合える学級づくりを進めてきたことで、意見を伝える側も伝えやすい環境が整ってきているためだと考えられる。	②そのフィードバックが次の活動に生かせるように設定することで、児童の段階的な成長につなげていく。	
確かな学力	表現力の育成	○様々な文章や資料を読む機会や、自分の考えを述べたり書いたりする機会を充実し、表現する力を育成する。	3.4	○表現力向上を目的とし、各学級で児童の実態に応じて、日記やスピーチ、振り返り等の表現の機会を意図的に設けることができた。 ●毎時間の授業での振り返りをする時間の確保や共有の方法などの改善点があがった。表現力を高めるための継続的且つ効果的な実践につなげる必要がある。	学力向上のための「思考力・表現力」育成の研究の継続 ①論理的な読解力 テキストを正確に読み、論理的に答えや自分の考えを導き出すためのチェックリストの活用。	
	思考力の育成	○チェックリストの項目を押さえることで教科書の内容を正確に理解し、自分の考えを構築する力を育成する。	3.1	○国語科を中心に思考力向上を目指した授業の研究を進めることができた。児童アンケートより、9割以上の児童が学習をして分かったことやこれまでの経験をもとに自分の考えをもつことができると回答しており、授業の様子からも課題に対して真剣に取り組む、考える姿が多く見られた。 ●どの教科においても、テキストを正確に読み、答えを導き出す論理的思考の育成が必要である。	②深い学びにつながる「思考力」「表現力」 思考し、表現する機会の充実と学びの質を高めるための効果的な学習の研究を進める。	
	読書活動の推進	○多種多様な『読書』を通し、多くの言葉に出会う場を意図的に設定することで、児童が持つ語彙の量を増やす。	3.3	○学期に1回、読書週間を設定し、児童が多様な『読書』にふれる機会を設けることができた。 ○アンケートより、知っている言葉が増えたと回答した児童は9割をこえた。 ○デジタル新聞は、興味関心を広げる手立てとなった。 ●新聞(デジタルを含む)を、読書の推進につなげるには、活用の仕方に課題がある。	①児童が達成感を味わえるように、取り組みに対して適切な評価をする。 ②児童が取り組みの目的を意識できるように工夫する。	
	思考のアウトプット 表現力	○新聞ワークシートやスピーチなどアウトプットの場を多く設定し、語彙の定着や知識の広がりを目指す。	3.2	○ワークシートや読書スピーチ、質問ブックドックなど表現の場を設定できた。 ●定着には、繰り返し取り組む必要がある。 ●児童の取り組みに対しての評価も必要である。	③学級での取り組みや活用を、職員間で定期的に共通理解する。	
健やかな体	外遊びの奨励 体力の向上	○外遊び集会や業間マラソン・業間なわとびなどの運動機会を作るとともに、進んで外遊びをする児童が増えるように外遊びを奨励し、体力の向上を目指す。(運動好きの児童が80%以上を目指す)	3.3	○児童アンケートでは、90%以上が運動好きという回答が得られた。 ○低学年を中心に運動場やひきの山で遊ぶ様子が多く見られた。 ○休み時間に体育館開放をすることで、普段外遊びをしない児童も遊びに行く姿が見られた。 ○業間なわとびを計画し全校で運動する機会も作ることもできた。 ●外遊びが日常化していくように継続して取り組んでいくことが必要である。	①外遊びが日常化していくように継続して運動機会を作る。 ②外遊びが楽しくなるような仕掛けやイベントを実施する。	
	基本的な生活習慣の 定着	○生活カレンダーやメディアコントロールチャレンジに取り組み、生活を振り返る機会を設定し、生活リズムの定着を目指す。	2.7	○メディアコントロールチャレンジでは、各家庭ごとにメディア機器利用に関する「わがやのルール」作りの機会を設定した。 ●チェック期間中はルールを意識できるが、その後の継続に課題があった。 ●低中高別に目標就寝時刻を設定したが、早寝の習慣化には至らなかった。	①家庭への啓発を継続し、「わがやのルール」を家庭で掲示してもらうなど家庭との連携を深める。	
学校運営	働き方改革	○日常的退勤時間を設定する。またNO残業の日を不定期で設定する。教育効果高めるために、すべてのタスクを緊急度と重要度のマトリクスに分類してスクラップ&ビルドする。	2.8	○退勤時間の設定により時間を意識して仕事を進めることができた。 ○会議、朝礼、終礼などをデジタル機器を用いて行ったので、業務削減やペーパーレスに繋がった。 ○デジタルドリルの導入により、丸付けの負担が軽くなった。 ●職員間で、タスクのスクラップ&ビルドにおける考え方にばらつきがある。	①退勤時刻やノー残業デーを設定する。 ②タスク管理の共通理解をし、スクラップできることを組織的に考える。	閉校後も地域とのつながりを大切に取組を継続してほしい。
	応援文化構築	○非認知能力やベッツトーク、アンガーマネジメントやコミュニケーションカードなどの研修を活かし、児童の夢の実現や目標の達成に向けて、お互いに、前向きな言葉で背中の一押しができるようになる。	3.3	○児童への声かけでは、肯定的で前向きな言葉を使用することを心がけた。 ○学期の初め、終わり、行事の前などにベッツ(気持ち前向きになるような)黒板を作成し、児童が本領発揮できるような声かけを意識した。 ○学級通信の文章表現にもベッツトークを意識した。 ●非認知能力のスキルを高めるためには、プロセスにおける気づきと意味づけで見取ることの習慣化が必要である。	①抽象的な教育目標を行動指針に転換し、即時的・適時的フィードバックを増やす。 ②ほめると叱るで価値を強要ではなく、共有していく。	
今年度の成果と次年度への課題		【成果】 ○ミート朝会の活用(生活目標やきまり) ○日記やスピーチによる表現力の向上 ○体育館の開放による運動量の増加 【課題】 ●日常的声掛けとフィードバック ●非認知能力の見取り方とフィードバック ●外遊びの日常化	○児童の実態交流による全職員共通理解 ○論理的思考で自分の考えをもつことができたようになった。 ○メディア活用における適切なマイルールの設定	○前向きになれなかった児童の変容 ○語彙数の増加と定着 ○ICT活用による時短	○友だちの意見を聞くこと、自分の意見を伝えること、環境づくり ○読書スピーチや質問ブックドックなどアウトプットの機会 ○やる気を引き出すコミュニケーション	●教科書や問題文、資料やグラフの正確な読み取り ●表現力を身につけるアウトプットの機会の継続設定と評価 ●タスクの効率的なスクラップ&ビルド

※総合評価【4点満点】 A：3.4以上(達成率85%以上) B：3.3~2.8(達成率84%~70%) C：2.7以下(達成率69%以下)